

# Let's TANQ 便り

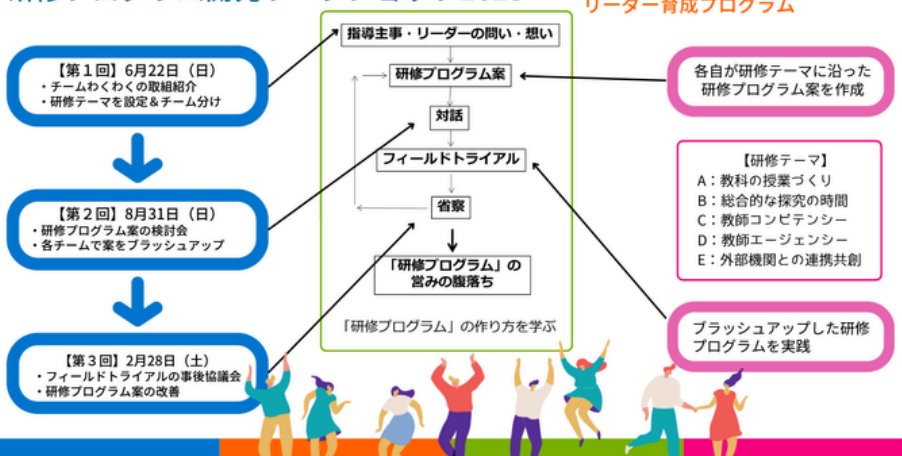
「探究2.0」共創実践コミュニティの拡大に向けたニュースレター



## 「研修プログラム開発ワークショップ」 新メンバー募集開始!!

### 研修プログラム開発ワークショップ2025

リーダー育成プログラム



「研修プログラム開発ワークショップ2025」は全3回シリーズで、当プロジェクトの「授業研究ワークショップ」を援用し、**研修プログラム案の作成・検討・実践・省察**という一連の活動を通して「**研修プログラム**」のつくり方を学び合う場として実施しました。

2026年2月28日に開催した第3回では、西村リーダーより、学校全体で協働しながら楽しく学びを創り出す文化の重要性が示され、各チームのフィールドトライアルの報告と省察を行いました。

最初に、広島県立教育センターの砂岡指導主事より、地域を越えた協働・共創コミュニティ「チームわくわく」による研修プログラムの開発プロセスをご紹介いただきました。研修をデザインするうえで、「問い」を中心とした気づきと対話の場を大切に、従来の「問題解決型のギャップ・アプローチ」ではなく、**強みや可能性に着目する「ポジティブ・アプローチ」**と、「どの問いを、どのタイミングで提示するか」というストーリー性のある設計が重要であるという気づきが共有されました。

その後の対談では、研修デザインにおいては、知識伝達を越え、受講者の思考の揺さぶりを生む「問い」の質が重要であること、また、そのプロセスで、メンバーの思考を可視化し、対話を重ねることで、共通言語が形成されていき、研修プログラムの共創が可能になったことも共有されました。

研修プログラム開発のプロセスと省察  
チームわくわくの  
研修プログラム開発の  
プロセスについて



東京学芸大学 高校探究プロジェクト  
協働・共創を通して

2026.2.28

広島県立教育センター 企画・制作・編集

<https://youtu.be/cvj61c9kCS4>

## ツールキット公開!!

「チームわくわく」の実践から、対話を生む問いの設計とポジティブ・アプローチによる研修デザインのポイントを紹介。共通言語を育てながら、研修を共創するヒントが詰まった動画です。

## 開催案内

東京学芸大学 高校探究プロジェクト

### 2026年度 数学科 授業研究ワークショップ 新規メンバー募集!

2024年からA~Hチームでスタートし、2025年度は10チームに分かれて、教材開発・検討、授業案作成・検討、研究授業、事後協議・省察の4フェーズからなる一連の授業研究に取り組んでいただいております。  
Slackを活用して、スケジュール管理や資料の共有、情報交換をしていただいております。

【第1回】2026年5月9日(土) 15:00~17:00  
右のQRコードよりお申込みください。



## 探究的な数学授業をともに創る新たな仲間を募集します!

高校探究プロジェクト数学科チームでは、2024年5月にA~Hの8チームからスタートし、2025年度は10チーム(1チーム8~10人構成)に分かれて、教材開発・検討、授業案作成・検討、研究授業、事後協議・省察の4フェーズからなる一連の授業研究に取り組んできました。2026年度も引き続き、授業研究を進めるにあたり、新規メンバーを募集します!

第1回にご参加いただけない方も、ご関心がある方は、ぜひ、**お申し込み**ください。

高校探究プロジェクト

## 探究の共創 2026 開催告知



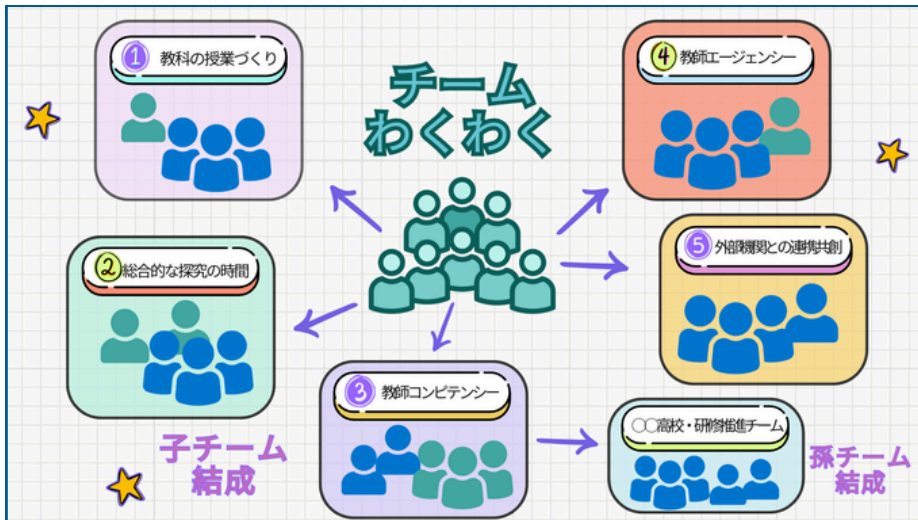
7月20日(月・祝)

in Winter 12月20日(日)

参加者・引率対象の「探究2.0」に関する勉強会を開催し、本イベントの趣旨や意義の共有

2022年度より、探究の成果発表にとどまらず、探究過程での対話を重視した「探究の共創イベント」を開催しています。夏(オンライン)と冬(対面)に、高校生が探究の途中経過を共有し合い、多様な視点に触れる共創の場を生み出してきました。

今年度も、**対話志向で他者に開かれた「探究2.0」の実装**に向けた交流の場として「探究の共創イベント」を開催しますので、ぜひご参加ください。事前に、「探究2.0」**体感ワークショップ**を開催する予定です。



## 「チームわくわく」から広がる新たな共創の輪 『子チーム』『孫チーム』の結成へ

本ワークショップは、広島・青森・大分・鳥取・沖縄などの指導主事が結成した「チームわくわく」とともに、研修プログラム開発を協働・共創するプロセスを通して、中央の「チームわくわく」から新たなコミュニティが「細胞分裂」のように広がっていくことを目指しました。各チームのフィールドトライアルの報告と省察の様子は右をご参照ください。

参加者から寄せられた声（下図参照）から、本ワークショップの意義を、3つの視点で実感しています。

● **孤独になりがちな研修づくりを支える、心理的安全性の高いコミュニティ。**「自分だけではないと励まされた」「安心して悩みを共有できた」といった声からわかるように、互いに認め、支え合う“心の拠り所”となりました。

● **地域や立場を越えた共創による知恵の融合。**自治体や職種の異なるメンバー同士の対話を通して、多様な視点が交わり、一人では生み出せないアイデアや質の高いプログラムが創出されました。

● **「伝達型研修」「自己省察型研修」から、問いを軸とする研修デザインへの研修デザイン観の転換。**「問い」とそれに対する受講者の思考を見据え、腹落ちや変容に至るプロセスを構想することの重要性が共有され、**教師自身が学びたい環境を共に創る視点が再認識**されました。

このように、「共創」を体感しながら、参加者一人ひとりのあり方や学校文化の更新を促す取り組みとなりました。

また、継続参加を希望される声も多く寄せられています。**新たなメンバーを迎え**、これまでの5つのチームに加えて新しいテーマのチームを編成し、リーダー育成プログラムとしてさらに発展させていきたいと考えています。

### ワークショップ参加者の声

研修づくりに悩んでいるのは自分だけではないんだと分かって、とにかく励まされました。今年、研修づくりについて校内でも先生方に声をかけていただけることが増えましたが、それはこのワークショップを通じて仲間が出来たからだと思っています。正解の存在しない「研修づくり」という業務に飛び込んでいける**勇気**が何より大事なだと気づかされました。

実践まで、苦勞を共有・受け止めていただいたチームの先生方に、暖かく応援いただき、とても心強く、これからも頑張っていこうと思えました。具体的なアドバイスも嬉しかったですが、それ以上にこういった外部で相談できたりフィードバックがもらえる場があるというのがとてもありがたいです。外部なのに**心理的安全性**が高い場と感じさせられました。

他県の先生、指導主事さんと、当事者意識をもって、共に研修をつくっていくことができました。研修づくりの過程を、地域・校種・職種を超えて共有する機会はないので貴重な経験ができました。**協働・共創の価値**を実感しました。こうした場がどんどん広がっていけばと思います。

所属校において**教師自身が学びたい環境づくりを進めていく**ために、自分自身ができることは何なのか。このことを考えるヒントを得ることができたときに、**自身の姿を振り返り、あり方を考える機会**となりました。前に進む**勇気**をいただいたような気がします。

ワークショップを通じて、外部の方々とつながり、授業づくりを行うだけでなく、実際に授業実践までつなげることができました。こうした人と人がつながる**機会**を積極的に活用して、この姿を生徒にも見せていくことが、生徒の**学びを社会につなげていく**ことにもなることを改めて感じました。

### 各チームの様子

#### ◆Aチーム（教科の授業づくり）

北海道の先生より、教科授業に「ミニ探究」を導入した実践を報告。生徒の自己肯定感や協働的な学習姿勢が高まるなどの変化が見られ、教員の意識にも変容が生まれたことが共有されました。

#### ◆Bチーム（総合的な探究の時間）

富山の先生より、校内でルーブリック作成に向けた対話の場づくりを進めた事例を紹介。本音で語り合える関係性を築くには時間が必要であることを実感しつつも、少人数の対話を積み重ねることで議論が前進し始めたことが報告されました。

#### ◆Cチーム（教師コンピテンシー）

東京の先生より、生徒の強みや良さに焦点を当てた校内研修の実践を共有。研修企画を通して教員同士の対話が活性化し、推進チームに前向きな変化が見られました。

#### ◆Dチーム（教師エージェンシー）

東京の先生より、自主的に校内勉強会を立ち上げた取り組みを紹介。活動を継続する中で仲間を増やし、最終的には来年度の公式委員会として学校に認められるなど、組織的な広がりが生まれたことが共有されました。

#### ◆Eチーム（外部機関との連携共創）

企業と教員が協働して授業を開発した事例を報告。異なる立場のメンバーの協働により新たな発想が生まれ、共創による学びの可能性が確認される一方、持続可能な連携モデルの構築が今後の課題として挙げられました。

### 新メンバーを募集します！

高校教員等の研修に携わっておられる指導主事等や校内研修の担当の先生方を対象としておりますが、教職員等の学びの場づくりや地域を越えた共創、研修デザイン等にご興味をお持ちの方など、**教職員等が学び合う場づくりに、ともにチャレンジしましょう！**

詳細は以下Webページよりご確認ください。

<https://g-tanq.jp/program>

